

## 6. 計画の位置づけ

- ・住民・地権者や、事業を行うものは、この計画の実現のために協力してください。
- ・行政とも、この計画をふまえ、協力・連携しながらまちづくりの事業を進めていきます。

## 7. 計画期間

- ・この計画は 10 ～ 20 年の中長期的な取組を視野に入れていきます。
- ・まずは概ね 2 年を第 1 期として、目標等を定め事業を進めていきます。
- ・事業の実施状況や地域・社会の状況の変化に応じ、適宜計画を見直していきます。

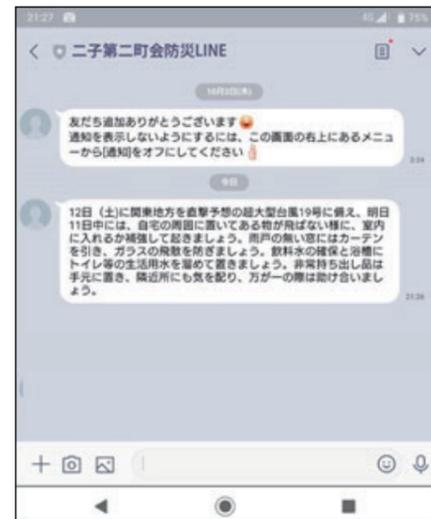
### 「二子第二町会防災 LINE」登録してみませんか！

二子第二町会では、町会からの情報発信の一つの手段として、「Line 公式アカウント」の運用を開始しました。当面は、主に地震・台風・火事等の「災害」や「防災まちづくり活動」に関する内容、その他地域の重要な取組に関する発信等を行う予定です。

#### 二子第二町会防災 LINE への登録方法



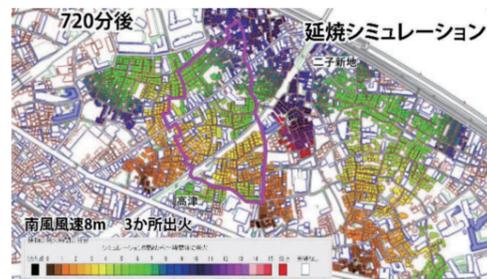
LINE アプリやスマートフォンの QR コード読取アプリ等で、左の二子第二町会防災 LINE アカウントの QR コードを読み取り、お友達に追加登録をしてください。



LINE のメッセージイメージ

### 二子第二町会の「不都合な真実」

- ・二子第二町会の延焼シミュレーションなど、災害時にどのような被害が起きるのか、という地区の「不都合な真実」についてのムービーを作成しました。右の QR コードや右下のアドレスから動画をご覧ください。



<https://youtu.be/MIZJgSY2RMY>

# 二子第二町会地区 防災まちづくり計画【保存版】

二子第二町会  
2020 年版

## 1. 防災まちづくり計画の背景と経緯

- 二子第二町会地区は、大山街道の二子の渡しに近く、古くから人々が住んでいた地区です。戦後は都心に近く利便性の高いまちとして宅地化が進み、1970 年代には、ほぼ現在の市街地が形成されました。しかし、昔の農地の区画のまま、宅地化が進んだため、道路や街区構成などの基盤が未熟なままです。
- 当地区は、首都直下型地震などの大規模災害の時に、**消火活動が行われずに放置された場合、1,000 棟以上に延焼が広がる可能性があります。**この延焼が広がる可能性のある範囲を**延焼クラスター（延焼運命共同体）**といいます。そこで、自助・共助・公助がバランスよくそれぞれの役割を發揮し、災害時の被害を少しでも減らす「減災」の取組を計画的に進めていく必要があります。
- 当地区は、川崎市より防災上課題のある地区を改善していく防災まちづくり支援地区に選ばれており、自助・共助と現在の取組を進めていくため、平成 29 年度から防災まちづくり取組を町会が中心となって実施してきました。

#### 防災まちづくりの視点

##### 視点 1

自分で自分を  
助けること

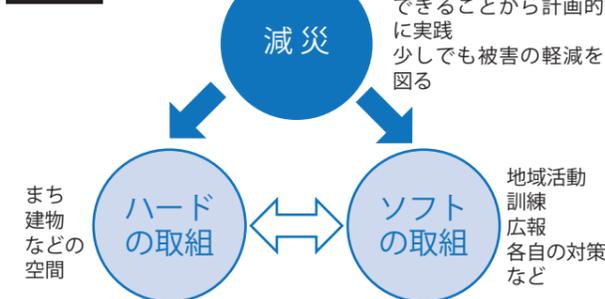
地域で共に  
助け合う事

行政による  
救助・支援



大災害が発生した場合、行政による支援には限界があります。そのため、「自ら（＝自助）」又は「地域住民（＝共助）」の力が非常に重要になります。

##### 視点 2



災害が発生した場合、被害を最小限に留めるには、「ハード」「ソフト」の両面で減災に向けた取組を事前に行うことが重要です。また、その認識を共有しておくことが求められます。



検討の様子



消火ホースキットの配備場所の検討の様子（2018年7月）

## 2. まちの課題と目標

### まちの課題

#### 1. みちの安全性に関する課題

- ・避難や消火・救護活動に困難な道がある。
- ・行き止まりの改善が必要（二方向避難の確保）。
- ・ブロック塀や落下物など、通り沿いに危険のある箇所がある。

#### 2. 各世帯での事前の対策に関する課題

- ・大規模火災が発生しないよう、一人一人が意識し、火を出さないまちにする必要がある。
- ・7日分の食糧を準備している人は13%しかいない。自宅での避難に必要な備えが必要。
- ・耐震性の低い建物が残っている。

#### 3. 地域の組織・人等の連携に関する課題

- ・災害時は、様々な技を持つ人、地区内の店舗や企業、近隣事業者などとの連携が不可欠である。
- ・隣接町会もふくめて一つの延焼クラスター（延焼運命共同体）を形成している。

#### 4. 地域での事前の対策に関する課題

- ・万が一火災が発生した時に備え、地域での初期消火体制づくりが必要である。
- ・地震、大規模火災、水害など、災害ごとの避難場所、避難ルート情報を普及させる必要がある。

#### 5. 地区住民の活動への参加に関する課題

- ・高齢者から子どもまで、様々な世代の様々な家族構成の住民がいることが特徴になっている。
- ・防災訓練への参加率が1割程度なので、参加率を上げていく工夫が求められている。

### 地区の目標

みちの安全性強化

自助による  
ハード・ソフトの  
事前の準備

地域の多様な  
主体の連携

共助による  
防災・減災のための  
対策強化

多世代が  
交流・協力・連携した  
取り組みの推進

## 3. プロジェクト

### 1. みちの安全性強化

当地区は、狭い道路が多く、災害時の逃げ道や、緊急活動等を円滑に行うために、「道の安全性を強化」することが強く求められます。

災害時の避難等を想定し、広域避難場所である多摩川や幹線道路等につながる道を「①河川敷や幹線道路に出る重要な避難ルート」として、周辺町会等とも連携しながら、安全性確保の取組を進めていきます。また、①に至る地区内の主な道路を「②避難ルートに通じる重要な道路」として、安全性の強化を進めていきます。

道の安全性強化については、地権者や行政等と連携しながら、以下のような取組を進めていきます。

#### ■町会で取り組むこと

- ・災害時に危険なブロック塀等の改善による沿道の安全性確保のPRや所有者支援
- ・二方向避難ができるように、行き止まり路地等の通り抜け確保についての働きかけ
- ・狭い道路（2項道路）を改善するセットバック等の推進・PR
- ・防災サイン（避難方向の表示等）の充実
- ・緊急車両等の通行ができるように電柱等の道路際や民地内への移設



ブロック塀に挟まれた路地 道路が拡幅しても移設されていない電柱 防災サインの例（横浜市） 狭い道路の改善イメージ

### 2. 自助によるハード・ソフトの事前の準備

災害が起きてからだけではなく、自分の命を守るための事前の取組が、すべての基本となります。地区内のすべての人が、大規模な災害時でも、自宅で避難できるよう、ハード・ソフトの事前の準備を進めていきます。また、一人一人が災害時に火を出さないようにすることが求められており、地震の揺れで電気を自動的に遮断し、電気火災を未然に防ぐ「感震ブレーカー」の普及も進めていきます。

#### ■町会で取り組むこと

- ・耐震診断や耐震改修を行うことの推進やPR
- ・自宅避難できるような事前の準備についてのPR
- ・感震ブレーカーの共同購入等の検討・実施



簡易タイプの感震ブレーカー  
ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断する、電気工事が不要なタイプ。  
(3,000～4,000円程度)

### 3. 地域の多様な主体の連携

当地区は、長年居住している人、新しく住み始めた人、店舗、企業など、様々な人・組織が存在していることが大きな特徴です。このような、多様な属性やノウハウを持った人・組織が協力・連携し、共助の力を発揮していくことを目指します。

多様な主体の連携により、以下のような取り組みを進めていきます。

#### ■町会で取り組むこと

- ・防災に関する人的資源・物的資源を把握し、災害時に活かす
- ・地区内や近隣事業者との防災活動における連携
- ・災害時の通り抜けや一時避難等における、近隣企業等との連携・協定
- ・水害なども視野に入れ、垂直避難等ができるビル・マンションとの連携・協定
- ・隣接町会との連携



周辺店舗や人材との連携

### 4. 共助による防災・減災のための対策強化

防災・減災のためには、訓練等を行うだけでなく、事前に設備等を準備し、それらを使いこなすための体制などを整えておく必要があります。このようなハード・ソフトの取組を計画的かつ継続的に進めていきます。

#### ■町会で取り組むこと

- ・初期消火を迅速に行うための、消火ホースキットの配備とそれらを活用した訓練等の実施
- ・地域の人同士で迅速に安否確認ができるよう、黄色いハンカチなどの安否確認の仕組み・体制づくり
- ・防災倉庫や一時避難場所など地域の防災拠点充実や活用促進
- ・災害時の情報伝達のための設備・訓練
- ・防災マップやマニュアル等の製作・配布



安否確認ツールの例



大陸天公園に設置した防災倉庫

消火ホースキット

消火ホースキットのサイン

### 5. 多世代が交流・協力・連携した取り組みの推進

当地区は、高齢者から子どもまで、様々な世代の様々な家族形態の住民が住んでいることが特徴です。多世代が交流・協力・連携した防災まちづくりの取組を推進していきます。特に、子どもに対しても、わかりやすく防災まちづくりの取組を伝え、親世代も含めた、大きな活動としていくことを目指します。

また、日常的な活動に参加できない人も含め、多くの人に情報を伝えるため、町会活動の一環として、WEBの活用なども含めて、広報を充実させていきます。

#### ■町会で取り組むこと

- ・防災まちづくりの広報や講座等の実施・充実
- ・多世代交流イベントによる防災まちづくりの普及啓発
- ・楽しみながら参加できる防災訓練等の実施



キャンプ会などでの炊き出し等の体験会をするなど

### 取組をはじめましょう！

2020年から取り組むこと

継続的に取組を進めること

#### ■町会に配備された「消火ホースキット」を使用した防災訓練を行う

町会に設置された2つの消火ホースキットの使い方を学ぶ防災訓練を定期的開催します。迅速な初期消火ができるように備えましょう。

#### ■大陸天公園の防災倉庫を活用する

町会で大陸天公園に設置した「防災倉庫」に備えるべきものを順次購入し、災害時に役立つ備品を揃えていきます。

#### ■町会防災LINEの活用で情報を共有する

町会として、必要な防災に関する1次情報をLINEで発信していきます。受け取った情報は、家族や隣近所の方々と共有しましょう。

#### ■防災バーベキューで災害時に必要な“もの”を学ぶ

災害発生時の炊き出し等を想定して、家にある食材や道具で「何ができるか」、「何が必要なのか」を学ぶ、体験型防災訓練「防災バーベキュー」の実施を検討していきます。「防災倉庫」を設置した大陸天公園で実施し、家にあるものを持ち寄る以外に必要なもの、災害時に役立つようなものを考えていきましょう。

#### ■災害時の町会の体制や情報収集について考え、備える

災害時、町会としてどのように情報を収集するか、どのような行動をするか、を検討していきます。町会のブロック分け、役割分担、「いつとき集合場所（情報収集の拠点）」の活用などを考えていきましょう。

検討して段階的に取組むこと

# 二子第二町会地区防災まちづくり計画 方針図

## 【凡例】

### プロジェクト 1 みちの安全性強化

#### 1. 重要な路線の安全性向上

-  ① 河川敷や幹線道路に出る重要な避難ルート
-  ② ①の避難ルートに通じる重要な道路  
(太さ：当該道路を使用する建物軒数に比例)

#### 2. 行き止まり道路の改善

-  行き止まり道路 (現況)
-  非常時の通り抜けルートを検討したい場所  
(ワークショップで出てきた意見)

### プロジェクト 3 地域の多様な主体の連携

-  連携・協力関係を構築したい  
商店や空地・駐車場等の所有者など  
(ワークショップで出てきた意見)

### プロジェクト 4 共助による防災・減災のための対策強化

-   消火ホースキットの配備  
設置済 計画
-  町会防災倉庫
-  災害時いっとき集合場所 (情報収集の拠点)

※この他のプロジェクトについては、  
計画本文をご覧ください。

-  消火栓
-  幅員 4 m未満の道路
-  幅員 4-6 mの道路
-  町会境

